

EBC (Evidence-based Control) 研究会ワークショップ 2010 のご案内

日時: 2010年4月17日(土) 13:15~16:45

場所: 京大会館 101号室(京都市左京区吉田河原町15-9) <http://www.kyodaikaikan.jp/access.html>

TEL (075)751-8311(代) *JR京都駅より市バスD2のりば(206)「京大正門前」まで(所要時間35分程度)
下車 徒歩7分. JR京都駅よりタクシー(所要時間約15分, 約1,600円)

参加費: 会場費等として1,000円を受付時に徴収させていただきます。

参加申し込み: 下記事務局に4月2日までに電子メールにてお願いします。申し込みをされた方には講演要旨をメール(PDF)で事前にお送りしますので, 当日ご持参ください。なお, 当日も会場にて受け付けを行います(13:00~)。

懇親会(会費5,000円程度): 四条河原町駅近辺で18:00より予定しております。参加をご希望の方は申し込み時にお申し出下さい。なお, 会費は懇親会場で徴収させていただきます。

プログラム

13:00 受付

13:15 開会

13:15~14:00 雨除け栽培で発生するトマトかいよう病の疫学的解析による伝染源の解明
—分子タイピングと空間分布解析の応用—

川口 章(岡山県農業総合センター農業試験場)

雨除け栽培におけるトマトかいよう病の発生生態を解明するために分子タイピングと空間分布解析を応用した疫学的解析を現地圃場で実施し, 第一次伝染源が土壌, 第二次伝染源が栽培者の管理作業に起因すると結論づけ, 防除指導に活用しているため, その概要を報告します。

14:00~14:45 リンゴ斑点落葉病の夏期の多発生に関連するリスク要因の疫学的解析

猫塚 修一(岩手県農業研究センター)

リンゴ斑点落葉病の新たな防除法作出のために流行初期と流行盛期の発病程度に関するコホート内症例対照研究を実施しました。その結果, 7月上旬の初発時の発生程度がその後の多発生に影響するという防除上重要な知見を得ることができたので, 具体的な研究手法も含めてその概要を紹介いたします。

14:45~15:00 信頼性の高い研究結果を効率的に得るための調査個体数設定の重要性とその方法

田代 暢哉(佐賀県上場営農センター)

信頼性の高い結果を効率よく得るための個体数の設定はとて重要なことですが, これまで試験計画の作成にあたってはまったくといっていいほど考慮されてきませんでした。そこで今回, 無駄のない試験を実施するために必要な個体数の設定について, わかりやすく解説します。

— 休憩 —

15:15~16:00 新規病害抵抗性誘導剤イソチアニルの防除特性

石川 亮(住友化学株式会社 農業化学品研究所)

イソチアニルはイネいもち病と他の数種病害に対して低用量で高い防除効果を示す新規の植物病害抵抗性誘導剤です。本剤は育苗箱処理や湛水散布に対応しており, 播種前からいもち病の初発前まで幅広く適用できます。今回, イソチアニルの特性について効果とイネに対する安全性の面から紹介します。

16:00~16:45 作物病害におけるレギュラトリーサイエンスとは

— 麦類赤かび病制御ガイドラインに基づく管理措置を例にして —

中島 隆(九州沖縄農業研究センター 赤かび病研究チーム)

時代のキーワードであるレギュラトリーサイエンスについてわかりやすく説明し, 行政サイドを納得させつつ科学的に意味のある研究を実施するためのコツを私の経験に基づいて伝授します。

16:45 閉会

問い合わせ先: 研究会事務局 東京農業大学農学部植物病理研究室 根岸寛光 (e-mail:negishi@nodai.ac.jp)